

神は歌う

小林 泰 輔

奨励者紹介〔こばやし・たいすけ〕

キリスト伝道隊清和キリスト教会牧師

「お前の主なる神はお前のただ中におられ
勇士であって勝利を与えられる。
主はお前のゆえに喜び楽しみ
愛によってお前を新たにし
お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」

(ゼファニヤ書 3章17節)

おはようございます。小林泰輔と申します。ここから歩いて10分ぐらいのところ、室町通にあります清和キリスト教会で牧師をしております。今日は、お招きいただいて、このチャペル・アワーでしばらくのあいだ、神さまの言葉を共に聞いていきたいと思います。

神さまと私のラブソング

「神は歌う」というテーマですが、「へえ、神さまも歌うことがあるんだー」と関心をもっていただけたらありがたいことです。神さまも歌うんだって聖書に書いてあるんですね。

私たちも歌を歌うでしょう。カラオケに行ったりすれば、J-pop かアニソンか洋楽か分かりませんが、好みに応じて歌うでしょう。大体の曲は(特に J-pop を例にあげれば)、恋愛ソングか応援ソングでしょう。恋愛についての歌詞などは若い皆さんも共感するところが多いかもしれませんね。著作権を考慮して特定の楽曲の歌詞ではなく、よくある歌詞表現として言えば、「今すぐあなたに会いたい」とか、「君のことをいつも想ってる」とか、「愛してるって言って欲しい」とか、そんな歌詞で歌われるのが恋愛ソングですね。水曜日のとあるバラエティ番組のごとく、私も一つの説を提示すると、「恋愛ソングは大体神さまと私の関係に置き換えられる説」があると思います。歌詞の「主人公」を神さまに、「君」とか「あなた」を私たちに、「あの子」などを他の神々や聖書の神以外に惹きつけられるものに置き換えると、ほぼ聖書の神さまの言葉に近くなります。神さまの私たちへの愛は妬むほどに強い愛で、神さまは「私はあなたが大好きよ。なのにあなたはあの子に夢中。切なくて狂おしいほどに愛してる」のようなことをずっとイスラエルに(そして私たちに)言っているのです。

喜び楽しむ神さま

今回のテーマ聖句でもある、ゼファニヤ書3章17節をご覧ください。「あなたの神、主は、あなたのただ中であって救いの勇士だ。主はあなたのことを大いに喜び、その愛によってあなたに安らぎを与え、高ら

かに歌ってあなたのことを喜ばれる」(新改訳2017)。「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる」(新共同訳)。あなたの神である主は、あなたのことを、あなたの存在そのものをとても喜んでおられると書いてあります。そしてそれを楽しみとされているとも書いてあります。

ここで一つ意外な、というか、興味を引く言葉がありませんでしたか。「神さまが楽しんでおられるですって」(新改訳2017)と思いませんか。そうです。神さまも楽しんだりするんです。神さまは、人間の願望をかなえるためだけに木や石で作られ、人間によって一方的に拝まれている、そういうものではないのです。私たちが罪を犯せば怒り、悲しまれ、私たちが神さまの御心にかなう生き方をすればそれを見て喜び、楽しまれる、そういうお方であるのです。一方的に拝まれるだけでなく、今も生きていて、私たちと人格的な交わりをされるのです。私たちは、私たちが愛してくださる神さまの愛に感謝し、賛美の歌を歌いますよね。同じように神さまもまた「高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる／喜びの歌をもって楽しまれる」とあるように、私たちのことを思うと、喜びや楽しみで、つつい歌い出したくなるというのです。ですから、神さまと私たちの関係は、歌ったり歌われたりする関係なんですね。

愛による支配

ところで、ここで神さまはどんな歌を歌われるんでしょうね。聖書は大体が神さまからのラブソングだと先ほど言いましたが、ここでの歌は勝利の喜びの歌だということが分かります。古代では王様が戦いに勝つと、負けた国からいろいろなお宝とか土地とかを奪い取ったりしたんですよ。それで、戦いに勝った後のパーティでは、戦利品や分捕り品を眺めながら、それこそ勝利の美酒に酔い、喜び踊って歌って祝ったんじゃないでしょうか。これも、そういう歌だと思えます。神さまが、私たちを分捕って、いやーめっちゃいいもん手に入れた!って喜んでる、そんな歌だと思えますね。私たちは罪の奴隷だったんですよ。悪魔に支配されてたんです。そこに救いの勇士がやって来て、敵である悪魔から分捕ったんですよ。そして、悪魔の支配から、神さまの支配に変わったんです。するとどうでしょう。神さまの支配は愛による支配です。めっちゃいい王様です。だから、支配されてもかえって「その愛によって安らぎを与え」られるんですね。「愛によってお前を新たにし」ともあります。で、神さまは毎日毎晩、自分で救い出した私たちのことを見ながら、ニタニタニタ笑って歌ってるわけですよ。「いいね」「超いいね」ってね。

自由と解放の凱歌

もう一つ、聖書の中のラブソングを紹介しますと、イザヤ書43章4節にこうあります。「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする」(新共同訳)。めっちゃくちゃラブソングですよ。私の瞳に映る君はどんな宝石よりも美しい、何にも代えがたい価値がある、尊い。神さまは私たちを、「あなたはわたしのものだ」と言って喜ばれます。神さまは私を勝ち取ったのです。どのようにしてか。それはゼファニヤ書によれば「救いの勇士」の働きによってです。イザヤ書では「身代わりとして人を与え」とあります。これらはイエス・キリストのことを指し示しているのです。

イエス・キリストが私たちの罪の身代わりとして十字架に死なれたことによって、私たちの罪と死との戦

いに勝利が与えられたのです。神さまが勇士のように命を投げ出し、犠牲を払って私たちを分捕られたので、私たちはもはや罪の奴隷ではなく、死も恐れるものでなくなったのです。イエス・キリストの十字架の犠牲が自分の罪のためであったことを認めて悔い改めるならば、私たちは罪と死から解放されるのです。だから神さまは高らかに歌うのです。自由と解放の凱歌を。

君じゃなきゃダメなんだ

私たちも神さまに歌います。あなたに救っていただいて、あなたのような素晴らしい優しい王様に治めていただいていることはなんと幸いかと。神さまはそうやって歌い歌われる交わりを楽しんでおられるのです。だから実は礼拝というのはとっても楽しいことなんです。神さまにとっても。私たちにとっても。単なる退屈な宗教儀式じゃないんです。楽しく交わることにこそ礼拝の本質があるのです。交わりと言うからには、交わる相手が必要ですよ。神さまはあなたのことを喜び、あなたと交わることを何よりも必要としておられます。神さまは喜びを分かち合い、愛を分かち合う相手として、あなたを選ばれたのです。もしあなたがいなかったら、神さまの喜びは満たされることがないのです。そしてまた、神さまなしでは私たちの喜びも満たされることがありません。神さまが唯一であるように、神さまにとってあなたも唯一なのです。ほかの誰かで済ませることはできないのです。「君じゃなきゃダメなんだ」と歌われるのです。

礼拝とは、神さまとの愛の関係を確かめ合い、それを楽しむことです。そして、その愛によって新しくされる時でもあります。これからもこの同志社で、そしてキリスト教会で、神さまの愛の中で安らう礼拝の時を楽しめますようにお奨めします。

2019年5月8日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録